



華麗なるインド神話の世界 — 神々が結ぶインドと日本 —

2012年10月6日(土)~2013年1月14日(月・祝)

Special Exhibition "Splendors of Hindu Gods and Goddesses"

Saturday, October 6, 2012 to Monday, January 14, 2013

会場 3階企画展示室 Special Exhibition Gallery

観覧料 一般300円、小・中学生150円

Admission: ¥300 for Adults, ¥150

for primary and junior high school students

ヒンドゥー神話の面白さを絵画・彫刻・工芸品で堪能できる日本では珍しい特別展。

古くは12世紀からインド近代美術の傑作まで、日本初公開作品を含む約160点を展示します。また、横浜インド商人が活躍し始めた19世紀から現代まで、インドの神々が結んだ日印の歴史も振り返ります。

利用案内 Visitor Information

横浜ユーラシア文化館

Yokohama Museum of EurAsian Cultures

〒231-0021 横浜市中区日本大通12
Tel. 045-663-2424 Fax. 045-663-2453

開館時間 9:30 a.m.~5:00 p.m.
(入館は4:30 p.m.まで)
※電力事情等により変更になることがあります。
その際は当ウェブサイトでお知らせいたします。

休館日 毎週月曜日(月曜日が祝日の場合は次の平日)
年末年始(12月28日~1月3日)他
※2012年9月25日(火)、10月4日(木)、5日(金)、2013年
1月16日(水)、17日(木)は、展示替えのため休館します。

入館料 一般200円、小・中学生100円
※特別展・企画展開催中は料金が変わることが
ございます。
毎週土曜日は、小・中学生、高校生無料
「障害者手帳」・横浜市の「濱ともカード」等をお持ちの方
には、入館料免除の制度がありますのでお尋ね下さい。

12 Nihon Odori, Nakaku, Yokohama, Japan 231-0021
Tel. 045-663-2424 Fax. 045-663-2453

Hours 9:30 a.m.-5:00 p.m.
(Admission until 4:30 p.m.)

Closed Mondays and year-end/New Year's recess
(December 28 to January 3)
Closed: September 25, October 4, 5, 2012 and
January 16, 17, 2013 for change of exhibition.

Admissions Adults: 200 yen
Children: 100 yen

<http://www.eurasia.city.yokohama.jp/>



アクセス
みなとみらい線日本大通り駅3番出口すぐ
JR関内駅南口・市営地下鉄関内駅1番出口
から徒歩約10分

Zero min. walk from Nihon Odori Sta.
on the Minato Mirai Line.

10 min. walk from Kannai Sta.
on the JR Line or Municipal Subway.

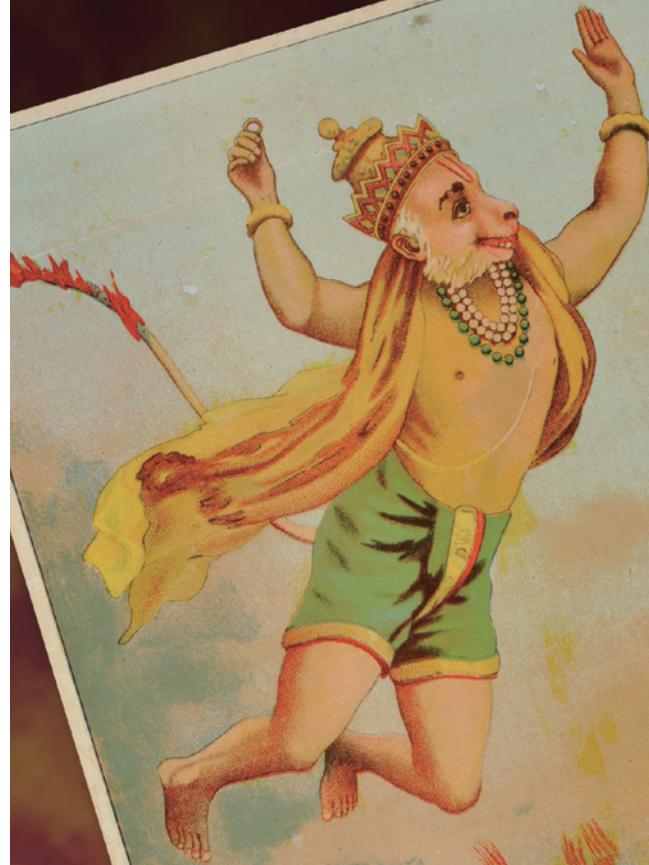


News from

EurAsia

横浜ユーラシア文化館 ニュース

No. 17



目次 Contents

P2 アートウォッチング
Art Watching

ハヌマーンの魅力
Hanuman the Perfect Hero
福原庸子 Yasuko Fukuhara

P4 ギャラリートーク
Gallery Talk

江上波夫の見た鳥居龍蔵
Ryuzo Torii through the eyes of Namio Egami
島山禎 Tei Hatakeyama

P6 蔵品紹介—常設展示室から—
The YMEAC Collection: From the Permanent Exhibition

鏡
Cauldron
島山禎 Tei Hatakeyama

P8 蔵品紹介—新収蔵資料—
The YMEAC Collection: Recent Additions

P9 催し物案内
Exhibitions and Events

P10 ミュージアムショップへようこそ!
Welcome to the Museum Shop!

P12 利用案内
Visitor Information

Art Watching

ハヌマーンの魅力

Hanuman the Perfect Hero

ヒンドゥー神の中でも特に人気がある猿の戦士ハヌマーン。風の神ヴァーユと天女アンジャーニーのもとに生まれた半獣神で、インド大叙事詩『ラーマヤナ』の悪魔退治において猿軍を率い、王子王妃を助けます。怪力で勇敢だけではなく、決して偉ぶらず献身的なハヌマーンは、ヒンドゥー教徒にとって理想的な英雄像、子どもたちの憧れです。彼の黄金の毛並みと長い尻尾、そして自由自在に身体の大きさを変え、宙を飛ぶ姿から、孫悟空との影響関係も研究され始めています。

版画(図1)は、敵陣で火を放たれた尻尾を振りまわし、魔王の都を炎で破壊しようと飛びまわるハヌマーンの雄姿。熱さをこらえ大暴れした後に海へ飛び込み、尻尾の火は無事に消されます。街頭にあふれる壁画(図2)の一つには、敵の矢に倒れた王子ラクシュmanaを救うため、ヒマラヤの薬草を山ごと運びこむ怪力ハヌマーンの姿が描かれています。青銅像のハヌマーン(図3)は、胸を突き出し両手を広げ、雄叫びをあげる姿。戦場で士気を高め、魔王を威嚇している様子かもしれません。

インドの人々に広く敬愛されるハヌマーンは、寺院ばかりでなく街や村、そして家の祭壇で、手厚く祀られています(図4)。



図1 石版画 インド 19~20世紀 高約47cm (黒田豊蔵)
Fig.1 Lithograph, India 19th-20th century, H. 47 cm, Owned by Yutaka Kuroda



図2 2012年5月バラナシにて 撮影:川島寿美恵
Fig.2 Photograph by Sumie Kawashima, Varanasi, India, May 2012



図4 2012年5月ジャイプールにて 撮影:川島寿美恵
Fig.4 Photograph by Sumie Kawashima, Jaipur, India, May 2012

Hanuman, the brave and humble hero in the great Indian epic "Ramayana" is extremely popular all over India. He is the son of wind god Vayu and apsara Anjani. Figure 1 shows airborne Hanuman as he sets fire to the city of demon-king Ravana with the fire the demons lit to his tail. Figure 2, a wall painting in Varanasi, India, depicts Hanuman's supernatural aspect of power and devotion, carrying the whole mountain of life-saving herb to the injured prince in the battlefield. Figure 3 is a bronze figure of Hanuman sticking out his chest, with arms and mouth wide open, as if to threaten the demons. Figure 4 is a scene of worship where Lord Hanuman is beautifully adorned.



図3 青銅像 クメール 11世紀 高17cm (星野眞朋蔵)
Fig.3 Bronze, Khmer 11th century, H.17 cm, Owned by Masatomo Hoshino

これらの作品は、特別展「日印国交樹立60周年記念 華麗なるインド神話の世界—神々が結ぶインドと日本—」(2012年10月6日~2013年1月14日)に展示されます。
These works will be on display for the YMEAC special exhibition "Splendors of Hindu Gods and Goddesses" (Saturday, October 6, 2012 to Monday, January 14, 2013.)

江上波夫の見た鳥居龍蔵

Ryuzo Torii through the eyes of Namio Egami



展示室 The Exhibition

当館企画展「モンゴル～シベリアを歩く―鳥居・江上の大陸探検―」では、ユーラシアの草原地帯の文化に深い関心を抱き、モンゴル高原～シベリアにおいて、人類学、民族学、考古学の分野で先駆的な学術調査を行った二人の日本人研究者、鳥居龍蔵(1870-1953)と江上波夫(1906-2002)に焦点を当てました^[5]。

鳥居は、アジア各地でフィールドワークを行い、モンゴル高原にその学問的関心を集中させて行った人物です。一方、36歳下の江上は、学生時代から騎馬遊牧民の文化を研究テーマとし、卒業するや否や主に考古学的な見地から調査を行うべくモンゴル高原に赴きます。二人は師弟関係にはなく、共に調査を行った記録もありませんが、江上は「関心のあるところは、みんな鳥居先生がいちおうツバをつけてしまわれた」^[2]と述べており、鳥居の

足跡を強く意識していたことがうかがわれます。

江上が語る鳥居は、「どこへ行っても、そこにおける学術調査の先鞭をつけ」たパイオニアであり、「探検型」、「冒険型」の学者であり、その学問に対する態度は、「あえて苦難の道をいく求道者」ともいべき厳しいものでした^[4]。江上は、現地に赴いてその土地と文化を肌身に感ずることを大切にしている鳥居を「自分の体験を通して、自分の学問を世に問われた…自らの中に人類学をつかっていくという学者」^[3]と評し、「日本の人類学、民族学、考古学を今日あらしめた先駆的巨人」^[4]と位置づけています。

1895年の遼東半島の調査を皮切りに、1939年北京の燕京大学招聘後もフィールドワークを続けた鳥居を「50年もの間、倦むことなく海外で野外の調査を実行された…学術的探検の最長レコード・

ホルダー」と呼んだ江上は、1930年のモンゴル高原調査から90年代まで、実に60年もの間フィールドに向かい続けました。書物の中だけの勉強を批判した江上の「鳥居さんみたいな学風を理解できるのは我われなんだよ」^[3]という言葉は、鳥居を10年以上上回る「最長レコード・ホルダー」となった江上だからこそその重みもっています。

参考文献

- [1] 江上波夫「作品解説「満蒙を探る」泉靖一編『失われた文明を求めて』現代の冒険第8巻、文芸春秋、1970年
 - [2] 泉靖一・江上波夫「『失われた文明を求めて』について一対談」泉靖一編『失われた文明を求めて』現代の冒険第8巻、文芸春秋、1970年
 - [3] 「鳥居龍蔵博士の人類学的ヴィジョン―対談 八幡一郎×江上波夫」『季刊どるめん』第3号、JICC出版局、1974年7月
 - [4] 江上波夫「解題」『鳥居龍蔵全集』第8巻 朝日新聞社、1976年
 - [5] 横浜ユーラシア文化館編『モンゴル～シベリアを歩く―鳥居・江上の大陸探検―』横浜ユーラシア文化館、2012年
- ※文中の[]内の数字は参考文献の番号に一致します。

The YMEAC special exhibition focused on two Japanese scholars Ryuzo Torii (1870-1953) and Namio Egami (1906-2002) who explored nomadic world in Mongolia and Siberia.

Egami was thirty-six years younger than Torii and respected him as the pioneer in the anthropological, ethnological and archaeological researches in these areas.

Egami attached importance to fieldwork in his study. And he called Torii “the record holder of the longest fieldwork on which he spent fifty years in his life.” Egami himself continued his researches as a fieldworker over sixty years. Both Torii and Egami are among the greatest fieldworkers in Japan.



展示解説 2012年8月18日 Gallery Talk, August 18, 2012



関連ミニ講座 2012年8月19日 Lecture, August 19, 2012

日本・モンゴル外交関係樹立40周年記念
横浜ユーラシア文化館 企画展

モンゴル～シベリアを歩く ―鳥居・江上の大陸探検―

遊牧世界に魅せられた日本人たち

Longing for the Steppes : Expeditions in Mongolia and Siberia by Ryuzo Torii and Namio Egami

XX зууны нүүдэлчиний соёлтой танилцсан тэмдэглэл ~Торий, Рюүзо, Эгами Намио нарын судалгаа~

2012年7月28日(土)～9月23日(日)
Saturday, July 28 to Sunday, September 23, 2012

横浜市歴史博物館と共催

The YMEAC Collection

From the Permanent Exhibition

ふく
鍑
Cauldron

青銅 高11.3 cm
中国、4~5世紀
Bronze, H. 11.3 cm
China, 4th-5th century

前号に引き続き、騎馬遊牧民が鍋として用いたと思われる金属製容器「鍑」をご紹介します。

この鍑は、圈足のない平底です。平底の鍑は、この地域では紀元前後から見られるようになります。漢代の鍑にはしばしば独特の弧線文がありますが、この鍑は無文です。半環形の把手を持ち、文様がなく、肩部の張ったこのような器形の鍑は、4世紀を中心に中国東北部から西南部まで、さらに韓国南部でも知られています。器体を垂直方向に二分する范線（鑄型の合わせ目）が認められます。このような范線には中国青銅器の鑄造技法との関連がうかがわれます。

金官加耶の中心地であった韓国の金海地域で、このような形の鍑が出土し注目を集めたのは、1990年のことでした。騎馬遊牧民の文化的要素が朝鮮半島南部にまで至っていることが、考古学的な資料から明らかになり、日本でも大きく喧伝されました。

韓国南部における鍑の出現は、騎馬遊牧民の文化的要素の出現ということできますが、それがこの地域の生活に大きな影響を与えた様子は見えず、騎馬遊牧民そのものの移動と直接結び付けられるとは限りません。中国では、このような形の鍑は、東北地方から西南部にまで広がっており、ある程度中国文化に根付いてきたものと考えられています。

参考文献

草原考古研究会編『鍑の研究—ユーラシア草原の祭器・什器—』
雄山閣、2011年

This Cauldron has a flat bottom. It has no ring-foot. Cauldrons with flat bottoms appeared approximately two thousand years ago in Mongolia and northern China. They were often decorated with arc pattern on the bodies, but this one has no decoration. Such cauldrons with bi-conical shape, semi-circular handles and no decoration are found in northern China and areas further to the south, and in South Korea. Many of them are dated to the 4th century.

These findings suggest that nomadic cultural elements spread to these areas even if the nomads themselves did not migrate.

On the body this cauldron has vertical seam caused by putting the casting molds together. Vertical seams are characteristic of Chinese bronze casting technique.



The YMEAC Collection

Recent Additions (April to August 2012)

2012年4月から8月までに、ご寄贈いただきました資料をご紹介します。ご寄贈くださいましたみなさま、ご寄贈にあたりご協力いただきましたみなさまに、厚く御礼申し上げます。

収蔵番号 YMEAC-12-0001~0004

中国現代絵画

点数 4点
地域 中国
寄贈者 林裕己



※敬称略

油彩 Oil Painting
中国 China
20世紀 20th century
51.5×62 cm
Donated by Hiroimi Hayashi

収蔵番号 YMEAC-12-0005~0008

モン族の民族衣装

点数 4点
地域 ベトナム
寄贈者 青柳繁子



上着 Jackets
ベトナム Mon, Vietnam
20世紀 20th century
丈(L.) 73 cm, 75 cm
Donated by Shigeko Aoyagi

収蔵番号 YMEAC-12-0009

吹矢筒

点数 1点
地域 フィリピン
寄贈者 青柳洋治



吹矢筒 Blowgun
フィリピン、パラワン島 Palawan, Philippines
20世紀 20th century
長(L.) 88.5 cm
Donated by Yoji Aoyagi

催し物案内 Exhibitions and Events

■企画展・特別展 Exhibitions

日印国交樹立60周年記念 特別展

華麗なるインド神話の世界

— 神々が結ぶインドと日本 —

2012年10月6日(土)~2013年1月14日(月・祝)

Special Exhibition “Splendors of Hindu Gods and Goddesses”

Saturday, October 6, 2012 to Monday, January 14, 2013

会場 3階企画展示室
Special Exhibition Gallery
観覧料 一般300円、小・中学生150円
Admission: ¥300 for Adults,
¥150 for primary and junior high school students

特別展関連展示

魅惑のクメール青銅美術

2012年9月26日(水)~2013年1月14日(月・祝)

Khmer Bronzes

Saturday, October 6, 2012 to Monday, January 14, 2013

会場 2階常設展示室(一部)
Permanent Exhibition Gallery
観覧料 一般200円、小・中学生100円
Admission: ¥200 for Adults,
¥100 for primary and junior high school students
特別展観覧券でもご覧いただけます。

特別展関連展示

横浜におけるインド人のあゆみ

2012年10月6日(土)~2013年1月14日(月・祝)

会場 1階ギャラリー
観覧無料

横浜開港資料館と共催

特別展関連展示

flicker ~ゆらめきIII~ 印度

川島寿美恵写真展

2012年10月6日(土)~2013年1月14日(月・祝)

India Photographs by Sumie Kawashima

Saturday, October 6, 2012 to Monday, January 14, 2013

会場 1階旧第1玄関 1F Gallery
観覧無料 Admission Free

特別公開

「自鑪序至烏斯蔵程站輿図」

2012年12月11日(火)~12月24日(月・祝)

Featured Exhibit

“Map of the Routes from Luting to Tibet”

Tuesday, 11 to Monday, 14 December, 2012

観覧料 一般200円、小・中学生100円
Admission: ¥200 for Adults,
¥100 for primary and junior high school students

■講座 Lectures

横浜都市発展記念館・横浜ユーラシア文化館 講座

Lectures (in Japanese)

(料金)200円
(時間)14時~30分程度
(定員)30名(先着順)
(会場)1階ギャラリー

スケジュール(予定)

2012年10月20日(土)「映像でたどる昭和の横浜・都市の交通編」

11月24日(土)「維新の起業家・高島嘉右衛門」

12月22日(土)「昭和はじめの女学校
—フェリス女学生旧蔵資料から—」

2013年 1月19日(土)「世界最古の文字記録
楔形文字粘土板文書」

2月23日(土)「館蔵中国北方系青銅器」

3月30日(土)「館蔵品に探る東西交流」

■催し物 Events

開館10周年感謝企画

2013年3月9日(土)・10日(日) (予定)

The 10th Anniversary Events at the Yokohama Museum of Eurasian Cultures and the Museum of Yokohama Urban History

Saturday, March 9 - Sunday, 10, 2013

全館無料の2日館。楽しい企画をたくさんご用意して皆様をお待ちしております。

Details will be announced on our website.

ミュージアムショップへようこそ！
Welcome to the Museum Shop!

復刻！ インド向け輸出マッチ

Reminiscing Hindu Gods and Goddesses:
Japanese Matchbox Labels for Export to India

いろいろどりの
マッチラベルたち

ミュージアムショップでは、
特別展「華麗なるインド神話の世界」に関連して、
展示期間中はさまざまなグッズを販売します！

今回は中でもこちらのマッチ箱をご紹介します。
箱のラベルをよく見ると、特別展でも紹介されているインドの神様たちの姿が！実は、明治・大正期の日本でインド輸出用に製作されたマッチラベルを復刻したもののなのです。
その当時、日本のマッチ生産80%が輸出向けだったそうです。ラベルを描いていたのは、西洋文化におされ気味だった日本の絵師達。インドで人気のあった大衆宗教画に似せようとした努力がうかがわれます。

5.6 cm×3.5 cmという小さなラベルですが、そこにはインドの神様への信仰心と日本の伝統技術が詰まっています。
当館ミュージアムショップでは、この復刻ラベルのグッズを販売いたします。お気に入りのラベルを展示見学の思い出にどうぞ。



マッチ棒の頭は箱の側面と同じ色。
さりげない所がおしゃれ★



1階のミュージアムショップは
入場料無料です。
open 9:30～17:00



マッチラベルを絵はがきにしました。
こちらもお楽しみに！



横浜都市発展記念館
横浜ユーラシア文化館

Museum Shop